

「丹波」・「丹波篠山」 ブランドの現状について

平成29年3月21日
篠山市議会政策討論会

1.丹波ブランドについて①

○丹波地域各市町・府県の行政計画等からみる各自治体ブランド戦略

*丹波地域を構成する各市町（7市町）

- ・京都府内：福知山市、綾部市、南丹市、亀岡市、京丹波町
（4市1町）
- ・兵庫県内：丹波市、篠山市
（2市）

1.丹波ブランドについて②

○丹波地域各市町行政計画等からみるブランド戦略

京
都
府

自治体名	ブランド名	計画等
福知山市	○丹波福知山ブランド ○丹波ブランド	福知山市まち・ひと・しごと・あん しん創生・総合戦略
綾部市	(丹波くり、丹波まつたけなどの振興)	綾部市まち・ひと・しごと創生 総 合戦略
亀岡市	○京都丹波ブランド	亀岡市総合計画後期基本計画
南丹市	○京・南丹ブランド	京・南丹ブランドアクションプラン ～京の台所！なんたん～（概要版）
京丹波町	○京丹波高原ブランド	京丹波町総合計画

兵
庫
県

自治体名	ブランド名	計画等
丹波市	○丹波ブランド (丹波市ブランド*)	丹波市丹の里創生総合戦略 (*平成29年度施政方針)
篠山市	○丹波篠山ブランド	篠山市総合計画、篠山市総合戦略

1.丹波ブランドについて③

○丹波地域各市町行政計画等からみるブランド戦略

振興局/県民局	市町	ブランド名	計画等
中丹振興局	福知山市 綾部市 (舞鶴市)	(丹波ブランド産品を多角的に情報発信)	中丹地域振興計画
南丹振興局	亀岡市 南丹市 京丹波町	○京都丹波ブランド	南丹地域振興計画
丹波県民局	篠山市 丹波市	○丹波ブランド	丹波地域ビジョン改訂版

—	市町	ブランド名	備考
大丹波連携推進協議会	福知山市、綾部市、 亀岡市、南丹市、 京丹波町 篠山市、丹波市	○丹波ブランド	京都丹波と兵庫丹波を「大丹波」とし、広域連携組織として設立（H22.7）

1.丹波ブランドについて④

○新たな潮流として

* 創造都市の概念

→ユネスコ創造都市ネットワーク加盟（篠山市）

* 「半農半X」

→「あやべスタイル」の提案（綾部市）

・地域ブランド（価値）の拡張

特産物

（従来の付加価値源泉）



特産物+暮らしかた

（新たな付加価値源泉）

2.丹波篠山ブランドについて②

○ブランドイメージの創出（大衆文化の視座から）

- 1804年頃～ i 篠山藩時代
- 1860年頃～ ii 古典落語時代
- 1898年頃～ iii 明治学寮時代
- 1968年頃～ iv 高度成長期時代
- 1980年頃～ v バブル期・グルメブーム
- 2000年頃～ vi 朝ドラ



丹波篠山

・田舎のイメージが定着

2.丹波篠山ブランドについて③

○丹波篠山ブランド振興の歴史（主に農協の取り組みから）

* 篠山町農協

- ・ 第3次地域営農振興計画書
- ・ 篠山イメージ絵葉書

* 丹波ささやま農協誕生

- ・ 篠山町農協と丹波農協の合併

* 丹波ささやま農協

- ・ 地域団体登録商標制度の活用
「丹波篠山黒豆」、「丹波篠山牛」

平成元年

平成14年

平成23・24年

2.丹波篠山ブランドについて④

9

○丹波篠山ブランドの新たな展開



※丹波篠山スタイル

篠山城築城400年祭の際に提案（H21年）

- ・丹波篠山・まちなみアートフェスティバル
- ・個性的なカフェ、雑貨屋等の起業が芽吹く

※TanbaStyle

丹波焼の再解釈、現代的追究（H26～）

※NIPPONIA

古民家活用の完成形（H27～）

2.丹波篠山ブランドについて⑤

10

○篠山ブランドの興隆と「丹波篠山」のイメージの変遷

- ・ 日本一の山里
- ・ 田舎者
- ・ 働き者が住む、
- ・ 人情豊

- ・ 田舎
- ・ 特産物（黒豆、丹波栗）
- ・ 真面目な農家

- ・ 割と近い田舎
- ・ 城下町、観光
- ・ おいしい特産物
- ・ 熱心な農家

- ・ 洗練された田舎
- ・ 歴史文化が豊か
- ・ 観光、美味しい特産物
- ・ 心豊かな暮らし

2.丹波篠山ブランドについて⑥

11

○これからの丹波・丹波篠山ブランドの方向性

特産物

(従来の付加価値源泉)



特産物+暮らしかた

(新たな付加価値源泉)

3.過去の「丹波篠山」への市名検討①

12

○契機について

- ① (H16.11) 「**丹波市の誕生**」
- ② (H19年頃) JR篠山口**駅名**、丹南篠山口**IC名**を変更する署名運動
- ③ (H20.6) 篠山市と市議会に変更に係る要望書が提出
- ④ (H20.12) 定例会市長答弁
 - 駅名変更に係る費用が約**5,000万円以上**（城崎駅の事例）
→「**市民総意でなければ、受け入れられない**」（JR回答）
 - IC名変更費用の約**8,000万円**
→「**市に負担いただきたい。**」（日本高速道路（株）回答）
- ⑤ (H20.6～H22.9) **市名検討に係る一般質問**
- ⑥ (H23.3) 新青藍会より慎重な検討の申し入れ有



「市名」検討の開始へ

3.過去の「丹波篠山」への市名検討②

13

○市における検討過程

*「市名改称問題検討プロジェクトチーム」による検討事項（H22.6～）

- ・市名、「丹波篠山」の位置づけ
- ・「丹波篠山市」に変更した際、想定される効果、費用や市民負担
→所要経費は**約6,000万円**と示した
(※新青藍会は、**住民投票の実施費用等を含めると1億円以上**かかると主張)
- ・市名変更の効用と配慮すべき事項
- ・「市民意識調査」、「広聴活動」、「住民投票」の必要性も指摘



市は、プロジェクトチームの検討結果を受け、「市民意識調査」を行おうとするが、
議会は、**時期尚早**として**関連予算を皆減**

3.過去の「丹波篠山」への市名検討③

14

〇市における検討過程について②

* 「篠山市の市名を検討する委員会」における検討（H24.8～H26.3）

報告内容

- ・ 市名変更による利益不利益は判断できなかった
- ・ 「丹波篠山ブランドの強化・定着・維持」と、「篠山市の知名度の向上」を目指すことが市民のメリットになる
- ・ 市名変更の時期については、財政再建や丹波篠山ブランドの強化・啓発活動の進展状況を勘案しながら、適切な時期に検討を行うことが望ましい

この検討報告により、市名検討に係る議論は、一旦沈静化

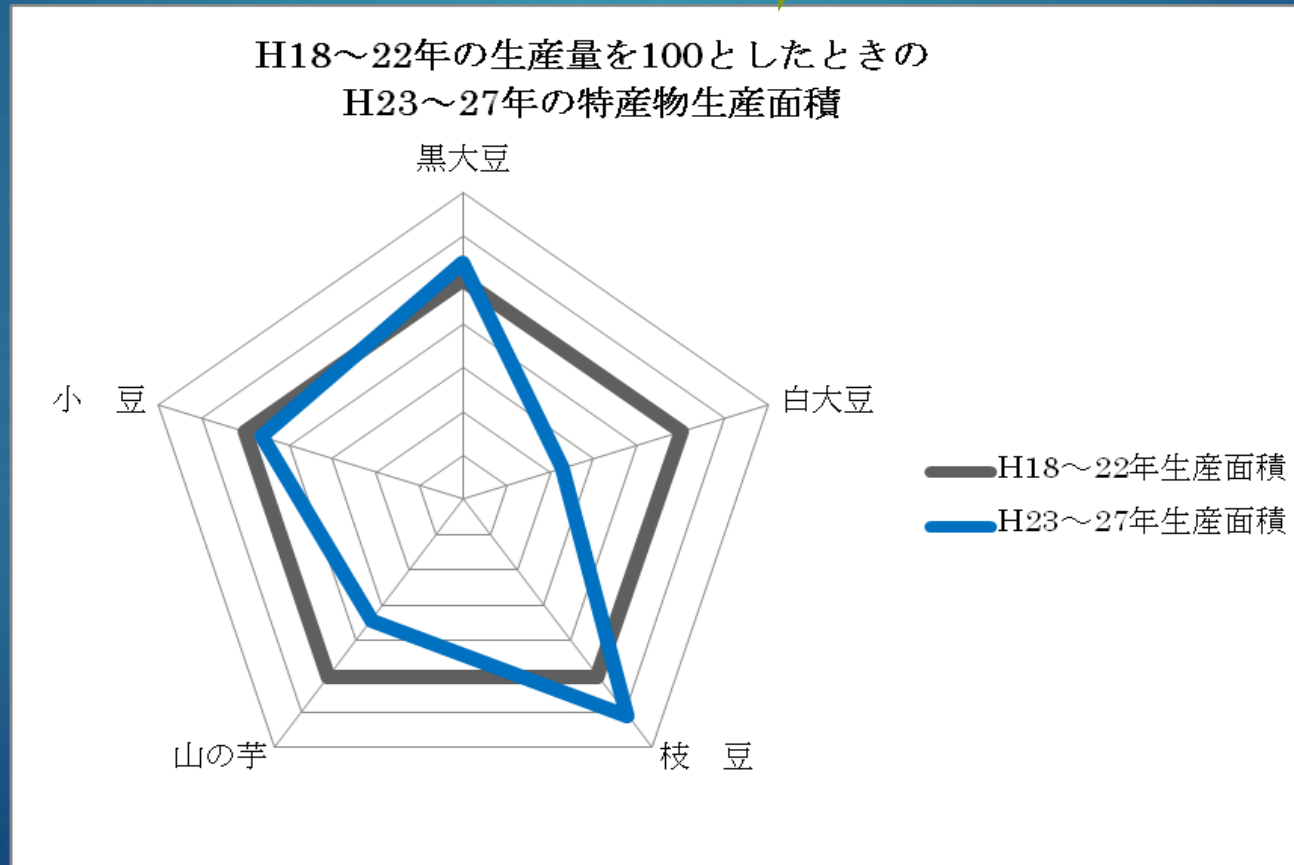
4.市名検討後の「丹波篠山ブランド」を 取り巻く状況①

○特産物の状況

★ (H21年) 農都宣言



近隣と比較しても、伸び悩み



4.市名検討後の「丹波篠山ブランド」を 取り巻く状況②

○人口減少対策が急務に ～人口ビジョン～

*人口減少社会

- ・人口6万人都市を目指して発足した篠山市
- ・90年代後半からの都心回帰の影響も受け、人口は継続的に減少
→市周辺域より様々な課題が顕在化



*人口ビジョン（H28.3）

「国立社会保障・人口問題研究所」の推計人口 20,973 人（2060 年）に対し、

→**人口増対策を講じ2060年に35,330人に抑えるとしている。**

4.市名検討後の「丹波篠山ブランド」を 取り巻く状況③

○「丹波篠山牛」虚偽表示事案（H28.9）

*概要

味土里館（丹波ささやま農協が運営）が平成19年5月～平成28年9月の間に渡り、篠山市産以外の牛肉を「丹波篠山牛」「篠山市産」と虚偽表示し販売。（約9.6 t）

※「丹波篠山牛」は、丹波ささやま農協が、地域ブランド「丹波篠山」の保護、活用のために、地域団体商標制度に登録した名称。



市民の共有財産である「丹波篠山」という地域ブランドを、「地域団体商標制度」で守ることには、リスクが伴うことが明らかになった。

4.市名検討後の「丹波篠山ブランド」を 取り巻く状況④

○明るい動きも... ～イノベーションラボ・日本遺産～

* 総合戦略

基本目標

『篠山の希望を未来につなぐー「篠山」
だからこそ実現できる創造的な農村の幸せー』

* 日本遺産

タイトル

「丹波篠山 デカンショ節～民謡に乗せて歌い
継ぐふるさとの記憶」



★地域住民のアイデン
ティティの再確認や地域
の元気・ブランド化等に
も貢献

5. 「丹波篠山」の誤解

○誤解の状況

現
状

従来

「丹波篠山」

＝

篠山市



現状

「丹波（・）篠山」

＝

丹波市・篠山市

（との認識が広がりつつある？）

要
因

(1) 観光案内誌の表記

→ 「丹波・篠山」と表記

(2) 天気予報による丹波地方の表記

→ 「丹波・篠山」と表記

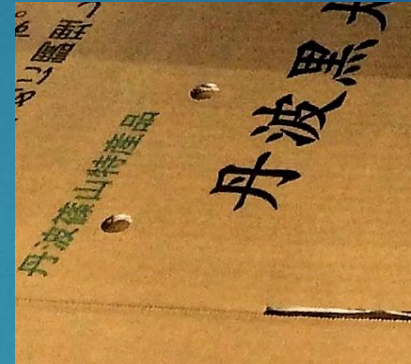


5. 「丹波篠山」の誤解②

○誤解の状況

① 農産資材における混乱 (H28.秋)

丹波市の量販店の黒豆資材販売コーナーで「丹波篠山黒大豆の枝豆」や「丹波篠山特産品」と表示された段ボール箱、手提げポリ袋、結束タイが並べられる。行政により商品の適正販売を求めるお願いがなされた。



② 丹波県民局事業における混乱

丹波地域ビジョン委員会「絆」分科会の「高齢者の生きがいづくりグループ」冊子

表紙に「丹波篠山地域」と表示される。



5. 「丹波篠山」の誤解③

従前のブランドイメージ

近年のブランドイメージ？

